



歯を失った後の治療が大切なワケ

歯が抜けたまま長い間放置すると様々なトラブルの原因になります。

むし歯、歯周病、事故など年齢を重ねるにつれ、残念ながら失う歯の本数も増えます。厚生労働省が行っている歯科疾患実態調査では、一人平均の歯を失った本数は、65~69歳で約7.2本、永久歯の本数は28本(親知らずを除く)なので1/4を失ってしまうことになります。歯を失った部分には、歯を補う治療が必要になります。左下の表は、歯を失った部分にブリッジ・部分入れ歯・総入れ歯を入れている割合を年代別に集計したものです。

60~64歳で4人に1人の方が部分入れ歯を入れ、70~74歳では4人に1人の方が総入れ歯を入れていることがわかります。

入れ歯などをつけている人の割合

年齢	ブリッジ	部分入れ歯	総入れ歯
40~44	18.5	1.3	-
45~49	22.4	2.9	1.0
50~54	38.9	8.9	1.2
55~59	48.3	17.1	1.4
60~64	53.6	24.3%	5.2
65~69	49.4	36.2	8.9
70~74	48.2	41.9	24.3%
75~79	46.5	46.2	28.8
80~84	34.7	52.0	42.7
85~	28.3	43.4	52.8

抜けたまま長い間放置すると...



咬み合わせへの影響

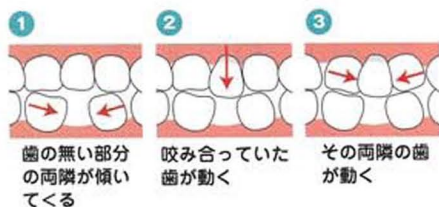
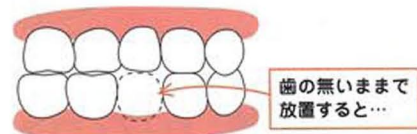
歯が動いて咬み合わせに影響すると余計な治療期間と費用がかかることに。

歯は上下合わせて28本(親知らずを除く)がバランスよく並び、物を噛んだり砕いたりしています。はじめて歯を失ったときは「歯はたくさんあるから1本くらい無くて・・・大丈夫。」と思われるかもしれませんが、歯はその1本1本が重要です。だからこそ自然と28本生えそろうようになっているのです。

そして、たった1本歯を失うことからお口全体の崩壊がはじまり、ある一線を越えるとどんどん崩壊していくことになるのです。

例えば、歯を1本抜けたままの状態でも長い間放置すると、イラストのように歯が動いてしまいます。

こうなると咬み合わせに影響して、治療も難しくなり治療期間や費用も余計にかかります。



他にも、むし歯や歯周病、歯並びが悪い、不適な被せ物・詰め物がある、といった状態を放置すると咬み合わせに影響がでできます。

咬み合わせと全身の関係

咬み合わせは全身のバランスを保つために重要です。咬み合わせが悪いとあごの筋肉に負担がかかったり、あごの位置がずれたりします。あごの位置がずれると、首・肩・腰の位置ずれ、筋肉の緊張など肩こりに影響します。

●お口の中への影響



●全身への影響



歯がない部分を補う3つの治療法



それぞれ、長所、短所があります。詳しくは、お気軽に担当医までご質問ください。

定期健診で残っている天然の歯を大切に!

歯は快適に食事するために不可欠な道具です。歯が抜けたまま、かみ合わせが悪い、といった状態ではしっかり噛んで食べることができません。特に入れ歯になると噛む力が低下し、噛み砕いたり噛み切ることによって時間がかり快適に食事できません。治療後は定期的な健診で残っている天然の歯をできる限り長持ちさせることが大切です。